



アイブラリー通信

愛知医科大学病院 病院長 羽生田正行



体を知ること、病気を知ること

患者さんやご家族の周りには、ネットやマスコミを介して病気や健康維持に関する情報が溢れかえっています。私も「テレビで見たけど、この薬飲んだ方がいいでしょうか？」と質問を受けることがあります。でもほとんどは効果がはっきりしない健康食品のようなものです。しかもこれが結構高価です。ですから私の答えはいつも「治療効果はありません。お財布が許すならどうぞ」です。民間療法や効果がはっきりしない薬を試す前に、ぜひご自分の体を知り、病気を正しく理解するために当院の健康情報室「アイブラリー」をご活用ください。皆様が正しい情報を得られるように、看護師や司書がお手伝いさせていただきます。ご来院の際にはぜひ一度アイブラリーにお立ち寄りください。



患者さん向けミニセミナー開催報告

医療情報をお届けする方法の一つとして、1時間の講座を実施しています。今年度は4回開催し、アンケートからも大変ご好評をいただきました。来年度も予定しております。ご期待ください。



第2回 7月31日(金) 14:30~15:30
あなたは足を大切にしていますか～フットケアについて～
講師：糖尿病看護認定看護師 片桐美奈子

フットケア外来の紹介から、足の状態の観察方法や、靴のえらびかた、靴の履き方、爪の手入れ方法など多方面からフットケアに必要なことを、また糖尿病症状とともに日常生活で注意すべき全身状態との関連、体型、姿勢、歩き方や栄養面に対しての考え方などを教えていただきました。

参加者は40代から70代まで幅広く「とてもわかりやすい」、「処置の方法が勉強になりました」などの感想がありました。

第3回 9月4日(金) 14:30~15:30
脳と心からみた慢性痛の不思議
講師：学際的痛みセンター特任教授 西原真理

講師は精神科の医師であり、慢性痛は6ヶ月を超えて痛みが継続し、臨床的判断ではどこも悪くないといわれる。この痛みはまた痛くなったらどうしようと、不安や恐怖を、脳が覚えていて痛いという現象が起こる。痛みは、脳や心と密接に関係しているということを具体的に説明していただき、身体的な要素の排除も必要であるが、「日常生活は、ポジティブに考え、生活を工夫し、痛みと上手につきあうことが大切である」と教えていただきました。

参加者は50代の方が多く、「とてもわかりやすかった」「また再度お聞きしたいと思います」などの感想がありました。

第4回 10月16日(金) 14:30~15:30
認知症にならないために
講師：認知症看護認定看護師 福田泰子



認知症にはいろいろなタイプがあり、原因や発生機序も違い、治療が有効な患者さんもあるため、まず専門医の診察を受けること、日常生活の中で頭を使い、身体機能を高めることが必要であり、楽しんで持続し行うことが重要であると教えていただきました。

参加者は、60代以上の方が多く、「再認識できたので、改めて生活を向上させていこうと思いました」などの感想がありました。

アイブラリーには 何があるの？

患者さんのご意見を反映した
図書や診療科等と連携した推薦
本も所蔵しています

- 患者さんからのリクエスト ■
 - ・がんの診断後の心のケアに関する図書
「がんで不安なあなたへ」
「患者必携がんになったら手にとるガイド」
 - ・糖尿病、1型糖尿病の図書
「最新 糖尿病診療のエビデンス」
「1型糖尿病お役立ちマニュアルpart2生活編」
- 小児科医師からの推薦図書 ■
 - 「イラストを見せながら説明する子どもの病気とその診かた」
「熱性けいれん診療ガイドライン<2015>」

